

高度な運転技能の評価方法に関する調査研究（平成3年度）

安全運転に必要な高度の技能・知識の評価方法は確立されたものがなく、高度な運転技能を評価するための方法を明らかにすることが当面の急務とされている。そこで、平成3年度から2カ年計画で、運転者の注視点、運転操作、車両挙動等に関する総合的な走行実験を実施し、運転技能レベルによって差異のある交通場面および計測項目を抽出する観点から解析および分析を行った。

① 初心運転者（普通免許取得後1年以上3年未満）と熟練運転者（普通免許取得後3年以上）

各々8名の被験者に対し、市街路、山岳道路、高速道路の3コースを設定して走行実験を行うとともに、運転意識等のアンケートを行った。

② 走行実験の結果、初心運転者と熟練運転者の注視点、運転操作および車両挙動について、以下のようにまとめられる。市街路のうち狭路については、運転者の注視特性が大いに異なっていると推測され、初心運転者は各交通場面での潜在危険性への予知能力、注視パターン等がまだ未熟であろうと思われる。信号交差点の右折については、熟練運転者と初心運転者の差異は明らかにならなかった。山岳道路のカーブ区間については、初心運転者は、速度制御にメリハリがなく、速度超過のまま進入し不安定な走行となることがあると推察される。高速道路のカーブ区間の走行については、熟練運転者はカーブの内側を注視するのに対し（図）、初心運転者は必ずしもカーブ内側を注視しているとは限らない。また、初心運転者は前方のみを注視し続ける傾向がみられた。

図 高速道路走行時のアイマーク（被験者番号02：熟練者）



*右カーブ車線境界線付近(カーブ内側)を注視している。

③ アンケートの結果、熟練運転者が運転に際して特に注意していることは「歩行者や他の車の動きに注意している」、注意している場所は「高速道路での運転」「交

差点を通過するとき」「人が多いところや人がいる場所を通過するとき」で

あり、初心運転者へのアドバイスとしては「スピードを出さない」「自分の運転技術を過信しない」

「周辺の状況をよく把握する」「いろいろな場面での危険を予知する」等であった。一方、初心運転者が運転に際して注意していることは「速度の出しすぎに注意している」「バックや右左折時に周辺に注意している」であった。また、初心運転者が受けたいアドバイスとしては、「雪、雨等条件の悪いときの走り方」「山道や曲線の多い道の走行」「高速道路の走行」等であった。

また、遵法性、一般的走行技術の自己評価、低速運転技術の自己評価、判断意思決定の迷いの少なさの因子で初心運転者と熟練運転者との差が大きい。